



タックシステム株式会社
www.tacsystem.com



AES2002 レポート

米国ロサンゼルスで2年ぶりに本格的に開催されたAESだが、今回は規模が大幅に縮小されており、出展者数も約100社ほどの減少、会場も1フロアのみとなっていた。全体では目玉になるような画期的な新製品といった商品はあまり無く低速みではあったが、今回のAESからは楽器関連メーカーのハイエンドマーケットへの進出の兆しがみられるなど、若干ながらも賑わいをみせている部分も感じられた。



- 1p. AES2002レポート
- 2~3p. 海外視察ツアー
- 4p. ホットプロダクツ: OKM社、APB Tools社
- 5p. Waves社 MAXBASSフィールドテスト
- 6p. ファイバーチャンネルのススメ
- 7p. 導入事例
- 8p. Dr. 新田の事件簿シリーズ
- 8p. 各種インフォメーション

JLCooper社

■ CS-32MiniDesk ミニコントローラー
約20cm角でコンパクトながらDAWコントローラとしてProTools等に対応し、フェーダーが32chあり、JOGやトランスポート、各種パラメータのコントロールが可能。

Fostex社

■ PD-6 DVDポータブルレコーダー (8cmDVD-RAM6chレコーダー)
関連商品では、HHB製PotaDrive、ZAXCOM製Devall等がマルチトラックレコーダーとして注目されていた。

タムラ製作所

■ DigitalPortableMixer izm125 サラウンド対応FireWire、LAN対応
■ izm806 & 821 ビデオシステムコントローラとノンリニアビデオディスクレコーダー 1Uタイプ

Millennia社 TwinTopology技術を応用したダイレクトボックス

■ TDB-1 "Twin Direct" (参考出展)

TwinTopologyとはソリッド・ステートと真空管の相反するサウンド回路を一つの筐体に同居させ切り替えて使用する技術である。TDB-1 "Twin Direct" は更に特許を受けたリアンプ回路搭載、入カインピーダンスは200KΩ~20MΩまで選択可能、パラメトリックEQの装備といった特徴をもち、Millennia社ならではのハイクオリティサウンドに仕上げられていると社長兼開発者のJohn La Grouは話す。2003年早々の販売が楽しみである。

Digidesign社 ProTools6.0ソフト発表

Mac OS Xサポートによりデュアルプロセッサ Mac G4のサポートによるパフォーマンス強化。UNIXベースの堅牢な環境が実現する強固な安定性、MIDI機能の強化、Beat Detective機能の強化。MachineControlオプションの追加、プラグイン機能の強化-オン・ザ・フライ(再生を止めずに)変更が可能といった点が注目されていた。

Steinberg社 NUENDO 2.0ソフト発表

NUENDOはバージョン2.0より1製品にてWindowsおよびMacintosh両プラットフォームに対応したクロスプラットフォームパッケージとなりマルチチャンネルオーディオの転送用にLAN (IEEE1394)に対応。さらに強化された波形編集機能、ネットワーク機能、外部機器からのコントロールの強化VST3.0エンジンを搭載、ユーザーインターフェイスのカスタマイズ可能等々。



海外スタジオ視察ツアー

今回は訪問先の決定が諸事情により“現地調達”と言う不安を抱えつつも、結果5ヶ所を巡ると言う、一般の日本人観光ツアーに匹敵する過密スケジュールとなりました。

① Iarrabee Sound Studios <http://www.iarrabeestudios.com/index.html>

午前10時、Hyatt Hotelを出発し、最初に訪れたのが、Iarrabee Sound Studiosです。こちらはnorth、west、eastと3つのLos Angeles市内に点在したファシリティを持つスタジオで、今回は5.1MIXも可能なIarrabee Sound Studios northにお邪魔しました。

案内役を務めて頂いたのは、エガワさんと言う日本人で、現在Iarrabee Sound Studiosを拠点に、Pro Toolsのメンテナンスの仕事をフリーランスでされている方です。

エガワさんは元々スタジオ付のレコーディングエンジニアをされていたようですが独立され、アルバイトの積りでPro Toolsメンテナンスを始められた所、次々とオファーが入り込んでしまっ、現在はこれ以上受けられない程盛況になってしまったそうです。ここ半年は名刺をあえて持たない様にまでしているとの事。

今回は特にロスでのレコーディングスタジオの生きた情報を多数伺う事が出来ました。印象深かったのは、音楽制作において、録音/編集はPro Toolsで行い、MIXはやはりアナログコンソールと山のようなアウトボードを使用し、Analog 1 inch 30ipsに落とすのがトレンドと言う事です。



Koji Egawa氏

Iarrabee Sound StudiosにはGearworks Pro Audioと言う機材レンタルの別セクションを持つ程のエフェクターを所有していて、Iarrabeeを使用する際、これらの豊富な機材をFreeで使用出来るのが一つの売りでもある様です。ちょうどスタジオではMIXのセッション最中でしたが、確かにすごい数のエフェクターにお目に掛かれました。



Ampexの1inchです。



これはあくまで一部です。→

② Lattemix <http://www.lattemix.com/>

続いての訪問地はSanta Monicaに移動して、まずはLattemixです。

スタジオコンセプト(タイトル)として『Sound design mix & voice over studios』と付けられている様に、主にTV spot、Radio Spotを得意とする制作会社です。ホームページ上にもサンプルがアップされていますが、Canon、HONDAと言った日本企業クライアントも多数訪れています。エンジニアのTed Lobigerさんがちょうどナレーション録りを終えられた現場にお邪魔しましたが、彼は最近Rocket Networkのネットワークサービスを使ってロスにしながら、フランス、ニースにいるティナ・ターナーのセッションのプロデュースを行ったそうです。

ちなみに写真左がTed氏、そして右側がここからの案内役を務めてくれたRocket Network社のMark Grasso氏です。

Rocket Networkは日本でPro ToolsのDigi Pro Net (Digi Studio) やリッシーミュージック社のASTRO SESSIONとして知られていて、ネットワークサービスが使用しているサービシステムサービスの会社です。



Ted氏とMark氏



STUDIO 2
Pro Tools Mix Plus - Universal Slave Driver - Focusrite Control 24 Console - Genelec Speakers
Yamaha NS-10M Speakers (in booth) - Aurstone Speakers - Manly Tube Pre Amp - Microlynx
Genier Digital Hybrid Phone Patch - Panasonic SV-3700 Dot Machine - Denon DCD-815 CD Player
AMA Cassette Tape Deck (2) - DBX 160X Compressor - Sony Trinitron 27" & 20" TV

日本でもADSLの登場以降、ファイル転送の実用性が高まっていますが、Rocket Network社は、使用DAWソフトに依存しないオーディオファイルの転送サービスであるRocketDeliveryも展開していますので、今後注目が高まって行く事でしょう。

全般的な傾向だそうですが、ここ10年、HollywoodからSanta Monicaにこうしたスタジオ業務は元より、業界関係者が移動しているとの事で、至る所にこうした会社が点在しているそうです。

③ HUM Music & Sound Design

<http://www.humit.com/pc/ie/index.html>

次の訪問先はLattemixと道を挟んで向かいのHUM Music & Sound Designです。

こちらは主にPro Tools / YAMAHA 02Rをメインとした音楽制作を主体とするスタジオです。コントロールルームの構成も面白く、くの字型のテーブルの一方に02Rを配置し、他方に作曲/アレンジャーの作業スペースを同等の幅で設置し、レコーディングエンジニアとの共同作業を快適に行える様設計されています。このコントロールルームは98年6月のMIX magazineの表紙も飾っています。自主レーベルを持ち、また別室にはガレージと一体化した様な、お抱え作曲家の専属スタジオスペースや、映像との音合わせの仕組み部屋のデジタイズスペース等も持っています。ちなみに取り込みはQuick Time / Adobe Premierを使用しているとの事ですが、画質的には全く問題ないとの話でした。



後方にはDirector席もたっぷりあります。

④ Margarita Mix de Santa Monica <http://www.lastudios.com>

4件目は同じくSanta MonicaにあるMargarita Mix de Santa Monicaです。



こちらはLA STUDIOSと言うグループの4つある施設の内の一つです。元々は1980年にHollywoodに設立されたのが始まりで、特徴的な所に、快適性を重視している点-どのスタジオにもキッチンを始めとしてアメニティ空間はありますが、ここの内装に関してロビーからスタジオに入るまでは、全く仕事場を感じさせない、さながらラテン系のレストランか、ホテルに来た様な錯覚を起こす位、徹底された物です。

案内されたスタジオにはdsp社のシステムが鎮座し、ハイテクな環境で、ハリウッドならではの5.1MIXのプロモーション作品を見せて頂きました。もう一つ特徴的なのがマシナールーム-集中コントロール室と表現した方が良いかも知れませんが、あらゆるメディアへのアーカイブが可能で、ライブラリーもすべてコンピュータ管理され、専属のオペレータが常駐しています。またLA STUDIOSの売りにISDN / APT社のシステムをすべてのファシリティに設置し、ナレーションを始め、やり取りがその場で出来る様、小スタジオスペースも併設されている点です。

⑤ GROOVE ADDICTS

<http://www.grooveaddicts.com/index2.html>

昼食後、ダウンタウン方面に戻り、最後の訪問先、GROOVE ADDICTSにお邪魔しました。

02年10月5日にお披露目がされたばかりと言う、作曲家集団が集まって作ったアトリエ感覚のスペースです。各個人の作業ブースが点在し、メインのスタジオにはYAMAHA DM2000 / Pro Tools HDを主体に5.1MIXに対応しています。小編成の弦楽器までの録音可能なブースも併設されています。『Who Did That Music?』と言うレーベルを運営して、作品を多数ネット上から販売もしています。



Cinema Display 2台と云う豪華さ!

■ TACツアーのメンバー



■ ツアーを終えて

以上、かなりタイトなスケジュールでしたが、様々な分野/スタイルのスタジオを見学する事が出来、充実していたと思います。日進月歩の技術を貪欲に吸収し、不況が叫ばれる中、前向きにオリジナリティを打ち出している姿勢は、さすがアメリカならではと言えるのでは無いでしょうか。最後に今回のスタジオ見学でスタジオを紹介して下さったKoji Egawa氏、Rocket Networks社のMark Grasso氏のご協力で改めて感謝の意を表します。



In Ear Stereo Microphones

モデル OKM II CXS

“Studio A3 Classic”

OKM II CXS & A3 パワーアダプター
価格 ¥32,000.-

モデル OKM II CXS

“Studio Solo Classic”

OKM II CXS のみ (プラグインパワー対応)
専用木製ケース付属
価格 ¥20,000.-



この度、ドイツから一風変わったマイクを輸入することになりました。OKM社の「OKM II CXS」という自分の耳にマイクを装着し、360°のサウンドキャプチャリングを行う、言うならばバイノーラルマイクです。インナーイヤホンのイヤホン部をそっくりマイクに置き換えたような外観をしています。ラインナップは-20dBアッテネーターとローカットフィルター機能が備わったバッテリー駆動プリアンプの「A3パワーアダプター」付き、無し、無しの2種類から選択ができます。マイクのみでもプラグインパワー対応なので同機能を有するポータブル機にはダイレクトに使用可能です。よって、録音機能のついたポータブルMDやDATがあればライブコンサートや自然の環境音、講演会などの録音が行えます。

■ バイノーラル録音とは...

タミーヘッドの耳に取り付けられたマイクで収録する録音方法です。このようにして録音されたサウンドはヘッドホンで再生することで、タミーヘッドの耳で聴いた音が、ダイレクトにリスナーの耳に届けられます。つまり、リスナー自身がその場に居合わせたような臨場感を体感できるのです。

という訳で「OKM II CXS」を耳に装着し録音開始。いい感じに部屋のノイズが録れています。みなさんも経験あるでしょう、普段聞き慣れている部屋のノイズって結構いい判断基準になりますよね。更に街に繰り出してみると車の移動やクラクションが実にリアルに録れます。ところが、誰が見てもポータブルMDで音楽鑑賞をしているようにしか見えません。周りの人に録音しているとは、まず気づかれませんか。(盗聴?) これはぎょうぎょうしいマイクを持ち込めそうにない場所での録音に打ってつけです。サウンドも外見から想像できないほどハイクオリティーで、きちんとローエンドまで収録ができます。そこでちょっとしたいざらを試してみました。背面から一言語りかけてもらい(オ〜イッ!)それを録音します。次にゲストを呼んできてヘッドホンで再生します。するとどうでしょう、何のためらいもなく振り返りキョトンとした表情。これなら使えそうと思ひ、次にスピーカー再生での互換性についてもチェックしてみました。ヘッドホンでのモニターでは若干低音が膨らみすぎてスピーカーでは結構フラットに感じます。基本的に耳に付けて使用(録音)するため、スピーカー再生における定位は甘めです。バイノーラル録音をするのでなければ環境音を録音するのに適していると思います。センターぬけの録音になるかと思いましたが結構全面に広がりいい感じです。(これは顔の形にも影響されるかも?)

■ 総評

1. 小さくて、軽い。(ポータブルMD/DAT等と一緒にどうぞ)
2. 録音しているのを、気づかれない。(決して、人様に迷惑はかけないように)
3. ちゃんとバイノーラルに聞こえる。(簡易型であることを忘れずに)
4. 結構音が良い。(見た目を考えるとホントに良い)
5. 以上のことを考えると、結構安い。(かもね!)

以上、考え方によっては色々な使い方が出来るこの「OKM II CXS」、是非とも色々なところで活用して下さい。



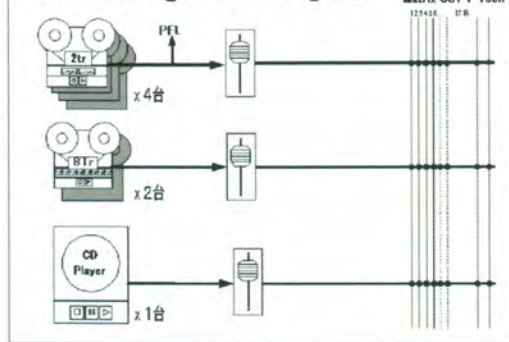
TH-S (Theater System) って何あ〜に?

今回、弊社が取扱を開始したAPB Tools社のソフトウェア、TH-Sについて分かりやすくご説明したいと思います。

■ APB Tools社概要

ドイツはベルリンを拠点に1994年に設立され、現在2つの部門があります。1つは劇場、イベントホール、テーマパークのオーディオ機器とサラウンド設置のコンサルティング/プランニングを行うセクション。ベルリンではかなり有名な様です。そして2つ目が digidesign のソフトウェアディベロップメント部門です。Steinberg や Emagic と並んでワールドワイドの DAE ディベロッパー契約を digidesign と結んでいます。その為 Pro Tools ソフトウェアに限らない DAE エンジンを使用する同社の Sigma1 や、この TH-S を開発する事が出来た訳です。

TH-S “image” block diagram



■ < TH-S >とは?

Macintosh をベースとし、digidesign/ハードウェア及びASIO互換のハードウェアに対応したイベントプレーバックシステムです。業界では所謂、“ポン出し”の名称で親しまれている機能を備えていて、4台のステレオと2台の8トラックのPlayer (テーブルレコーダー) を1台のMacの中で操作出来るイメージして下さい。さらにMacの内蔵CD-ROMドライブを独立したCD Player にしてしまいます。各アウトプットには専用マスターフェーダーがあり、最大18系統のマトリックスが設定出来ます。

● CM Automation 社製 Motor Mix を組み合わせる事によりプレイ、ストップは勿論、実際のフェーダーを触ってのレベルコントロール、“ネタ”の切り替えも可能です。その他 MIDI プログラムチェンジをコントロールする専用フェーダーも付属します。

● Mac 内蔵のオーディオアウトは Cue 信号の PFL モニターアウトとして使用出来ますので、本線にプログラムを送出しながら次のネタの手元確認作業と言うプロ仕様にもきちんと対応しています。本来は SE を再生する事が主な使い方となりますが、LOOP ボタンも付いているので、音楽フレーズネタによる、Remix/DJ 的な使い方も十分、実用性が有るかと思ひます。

弊社では、ソフトウェア単体での販売は勿論、“ポン出し専用機”一式としてのシステムを組んであります。またデモ版もご用意いたして居りますので、導入ご検討の際、よろしくお問い合わせ下さい。
 <対応コンピュータ及びソフトウェア>
 * Macintosh G3, G4 最低 128MB の RAM / 256MB 推奨 Mac OS 9.2.X
 * Apple Quick Time 5.0 以上 * OMS2.3.8 * Apple Script v1.6 以上
 * モニター解像度 1024 x 768 以上
 <動作確認済みハードウェア>
 * Pro Tools II, PTI24, PTI24MX, DIGI001 (DAEバージョンは 5.0.1以上)
 * MOTU PC324.828.896 (ドライバー 2.1以上)
 * ASIO 互換のオーディオインターフェース

MAXXBASS フィールドテスト

WAVES 社の新商品である MAXXBASS を
いろいろなシチュエーションで試してみました。

音楽を聴かせるカフェ&バー「OHIO」(オハイオ)

このバーは1970年代~80年代のソウル、ファンクを中心にターンテーブルと2台のCDプレーヤーを駆使し音楽とお酒、食事を提供する場所です。JAZZやAOR最近のR&Bまでの音楽をバーのマスター兼DJである金谷修一さんがお客様の雰囲気にあわせて選曲しています。金谷さんの選曲基準は「根底にSOULを感じられれば」だそうです。自ずとお客さんもカウンター越しにマスターと「音」や「音楽」の会話を楽しまれています。

● MAXXBASS 設置方法: DJミキサーのOUTをMAXXBASSに入らしMAXXBASSのOUTをプリメインアンプに入力。



【お店の主な音響システム】
アナログターンテーブル 1台、DJ用CDプレーヤー 2台
DJミキサー、プリメインアンプ(民生機)
店内スピーカー4本(民生機20cmウーファー2wayクラス)、
アクティブウーファー(民生機)です。

フィールドテストインタビュー◆バーOHIOのマスター兼DJの金谷修一様 インタビュアー:タックスタッフ 柳澤

「MAXXBASSの効き具合はいかがでしたか?」

金「ここでかける音楽では8~3年にレコーディングされたアナログ盤の音源が気持ちよく変化しますね。ウーファーをOFFにして大きな音量でならすとヴォーカルも聞こえてさらに低音感もあって、ご機嫌って感じです。アーティストだとStuffとか良く聞こえましたよ。あと、アコースティックギターの音の変化がとても良かったです。」

「最近レコーディングされた音楽にはあまり効きが良くないですか?」

金「MAXXBASSで低音を強調しようとする低音の音の『かたまり』みたいになっちゃって、いまいちですね。そんな時はBYPASSスイッチを使いました。」

「ハード的につまみの使い勝手とかランプの位置とかはいかがですか?」

金「うす暗い場所使っているんで、つまみに細かいクリック感があると指先の感覚でどれ位つまみを回したかが判るのでそうして欲しいですね。でもそのクリックとクリックの間の微妙な音が欲しいときに困っちゃうけどね。レベルのLEDランプはもう少し多くセグメントが欲しいですね。見栄え的にも派手になるし、信号の入力レベルが視認できるのは安心材料になるものでしょ。」

「今回はご協力していただきまして、本当にありがとうございました。」

金「あれ、MAXXBASS持って帰っちゃうのですか?」

「そんなに気に入っていただけましたか?」

金「いざなくなると、(音が)寂しくなっちゃいますね」

「是非、購入をご検討ください」

金「はい、MAXXBASSを送られてくるのを待っています(笑)」

「注文書お待ちしております(笑)」



社内聴き比べ



社内で行っているスピーカーでの聴き比べをしてみましたのでご紹介します。音源はMAXXBASSの効きがよくわかる曲及びクラシック音源を選曲しました。

【使用スピーカー:アンプ】

- 1) Roland DS-90A: 内蔵アンプ
- 2) YAMAHA MSP5: 内蔵アンプ
- 3) BOSE 101MM: BOSE 1705 II
- 4) BOSE 101MM + 10Wカップリングトランス: OSC CX302V (ハイインピーダンス)

【使用音源】

- CD「エリッククラプトン unplugged」
- CD「ドヴォルザーク 新世界」

- 1) Rolandのスピーカーは今回のスピーカーの中では比較的低音が出やすいスピーカーでMAXXBASSの効き方も早い反応がありました。
- 2) YAMAHAのスピーカーはMAXXBASSの補正をかけたると落ち着いた音になりましたが、BYPASSさせると「あれ、このスピーカーってこんなに癖のある音だったかな?」と思ってしまいました。
- 3) 101はMAXXBASSの補正で小型スピーカーにもかかわらず、BOSE独特の低音が強調されて再生されました。
- 4) ハイインピーダンスの組み合わせは今回のチェックの中では一番音の変化が感じられました。アコースティックギターの「弦のはじく音だけ」に聞こえている音が、ギターの胴が鳴っている音が強調され生楽器の心地よい音が再現されました。クラシック音楽では低音の響きが非常に強調され、例えばティンパニーの響きの音が大きく聞こえてしまいました。

■ 感想

WAVES社製のハードウェアMAXXBASSの耐久性や音質の変化についていろいろと試してみました。

耐久性に関しては全く問題ないです。

音質の変化に関してはすべての音楽に均等に効果を加える設定も時間をかければ見つけることが出来るかもしれません。

この低音の微妙な強調で音楽のニュアンスが変化し、さらに小型スピーカーでも案外低音が出るもんだなあと感じました。

今回はテストできませんでしたが、ライブなどで使用される大型スピーカーで、音楽制作のエフェクターとして、このMAXXBASSを使ったら一体どのような効果が得られるか、試していこうと思います。是非実際にお使いになって試してみてください。

Fiber Channel Network System

ファイバ・チャネルのススメ

近年インターネットやIT、サーバー等、ネットワークが色々なビジネスでのキーワードになっていますが、我々のDAWシステム界においても重要視する時が来たような感じがします。『ハイクオリティ=膨大なデータ』は当たり前で、常にディスク容量やバックアップのシステム提案は悩みの種。単純なLANシステムでのネットワーク構築は簡単ですが、リアルタイムで膨大なデータのやり取りを必要とするDAWでの使用にはあまり向いてはいませんし、何よりもProToolsでのレコーディングドライブの選択がネットワーク接続されているドライブは使用できない為この方法は無理！（残念）サーバーやネットワークの話を始めると、とてもじゃないけど終わらなくなってしまうので、この辺りでおしまい！そんな訳で、タックシステムではかねてより



別の離れた部屋の片隅に置いてあるドライブユニット。このラックだけで約1.5T(テラ)もの容量が！！(驚)

Rorke Data社のファイバ・チャネルシステムを提案しています。(ちょい強引)

このファイバ・チャネルというのは、非常に高速なデータ転送速度を安定して保ち、光ファイバー・ケーブルやメタル・ケーブルを使用することで、サーバー側(HDD)を端末から非常に離せるメリットがあり、ディスク容量を安易に増やせることやセキュリティ面でも非常に簡単なソフトで管理が出来て。。。と、非常にお手軽なんです！！色々メリットを挙げ続けても『なんのこっちゃ？』に成り兼ねないので、今回は実際にシステム導入をして頂いた『独立行政法人 通信総合研究所』様へ行き、生のご意見をおうかがいする事になりました。(感謝です！)



主にProToolsHDでレコーディング/エディット作業を行う部屋。勿論、ファイバ・チャネルでドライブをマウントしてあります。同じ部屋にはもう一台のMACが有りそこではNuendoが動いています。ついついスピーカーが目がいってしまいます。

インタビュー◆独立行政法人 通信総合研究所
情報通信部門インターネットアプリケーショングループ 勝本様
インタビュー：タックスタッフ 益子

マ『まずは導入の経緯を簡単にご紹介下さい』

勝『はい、以前はSCSIのハードディスクをRAID使用したりしてデータの管理をしていたのですが、膨大なデータを管理するのは大変ですし何よりも時間が掛かっていたんです。そこでちょうど一年前にタックさんに紹介してもらったファイバ・チャネルのシステム導入に踏み切りました。最初に7GBHDが8台のドライブユニットを2ヶ所で読み込めるシステム(2クライアント)にしました』

マ『その後、今年の9月に7GBHD x12台ユニットを増設し、クライアントも2つ増やし、4ヶ所からアクセスできるシステムになった訳ですね』

勝『そうです、非常に便利になりました』

マ『簡単にご利用法や便利なこと等、お聞かせ下さい』

勝『ここでは、ディスクサーバーとして使用しています。主な作業は映像編集でFinalCutProを使用。オーディオレコーディング&エディットでProToolsHD1台とNuendoを2台使用しています。部屋は2ヶ所あるので、以前はドライブを物理的に動かしていたのですが、今は4ヶ所どこからでもデータを読みに行けますし、ログイン名でドライブを管理できるので場所を移ってもすぐに途中の作業に戻れますよ、これは気に入っています』

勝『何より気に入っているのは、速度ですね、速いです！ProToolsHDを導入してから192kHzでの作業もするようになったのですが、同時レコーディング12chでも問題なく、さくさくレコーディングできますね。あ、あとは同じ作業をリアルタイムに、複数の人間で作業できますからね、他のネットワーク方法と明らかに違う点ですね』

マ『ファイバ・チャネルの良い所でもんね、同じファイルに複数の人が同時にアクセスできるのは』

勝『はい、以前は画像のファイルを動かすにも一苦労だったんですよ、サイズが大きいですから。本当に今は便利です。ProToolsでレコーディングしてる時に、もうNuendoでMIX作業に入れます！もう、以前の環境には戻れませんよ』

マ『絵に描いたようなお言葉です(笑)』

勝『今回HDを増設したのも、192kHzのレコーディングになるとすぐにデータが埋まっちゃうからなんです。ギガ単位のバックアップでも、ドライブ間のコピーでおしまいです、速いですから！一年前に導入した8台のドライブは、今はバックアップドライブになってます。(笑)なので今後も定期的にドライブ容量を増やすと思います』

マ『ドライブユニットを簡単に増設できるのも、ファイバ・チャネルならではのですね、管理ソフトありがとう(笑)』

マ『ファイバ・チャネルを導入する時に、別の方法は考えていましたか？例えば、LANでのネットワークとか』

勝『考えませんでしたよ。故障等のトラブル問題が有りますからね、PC(HOST)を一度介するようなLANのシステムだと危険性が高いです。直接ディスクサーバにクライアントを繋げられる方が安心です』

マ『最後に、今後の拡張/発展性等がお聞きできたら。。。』

勝『そうですね、ここには外部とのネットワークもかなり高速な回線が引いてあることだし、当研究所ではファイバ・チャネルをリアルタイムにインターネット上で拡張する技術を開発しましたから、ファイル共有でのミックスやレコーディングを協力してくれるスタジオ様があれば良いなあ、と考えています』

マ『(を！)凄い情報です！読者の皆様どうですか！？』

本日はお忙しいところ、いろいろありがとうございました！』



こちら部屋は上写真と隣接しているMA・ROOMで、実はMACは1台での作業。ミラーリング表示にしてどちらからでも作業を可能にしています。素晴らしいアイデアですね。コントローラーは『JL-Cooper』です！

■最後に...
かなり省略してしまった記事ですみません、勝本様。なんか時間の割には同じ事聞いてました~。

で、閉めます。(笑)やはり、価格的なデメリットも有るかもしれませんが、しかし、通信総合研究所様のように、導入されてこんなに喜んで頂けているのは、時間的な効率が大いではないでしょうか？
時間はお金で買えないといいますが、ある意味買えます。(；(過激発言ですが、軽く流してくださいね)

導入事例

TOYOKASEI

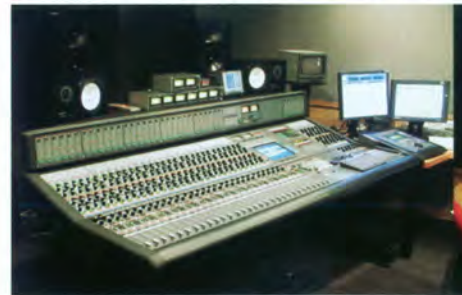
東洋化成株式会社様

アナログレコードのカッティング、プレスで知られている東洋化成様は、本社の移転にともなってカッティングルームとレコーディングルームを新設されました。ProToolsHDとControl24がメインのレコーディングルームはマイクプリアコンプレッサーなどのアウトボードも充実しています。このスタジオでは主にアナログレコードでの需要が高いヒップホップ系のレコーディングが行われるそうです。



McRay

株式会社マックレイ 五反田様 MAスタジオ MA G1



AMS/NEVEのMMCデジタルコンソールの日本第一号機を導入したスタジオは、Fairlight DREAM Satellite、ProToolsHD、dremi V1Dを中心としたノンリニアシステムを構築しています。サラウンドに対しては特に力を入れており、DolbyおよびDTSの各フォーマットに対応すること、それらをリアルタイムでエンコード/デコードできるように設計されていて、なおかつ確かなモニタリングシステムを持っている、との充実ぶり。ここまでのサラウンド対応はMAスタジオとしてはまだ少ないでしょう。また、今話題の24Pにも対応しています。さらに同社で



は、西麻布のMAスタジオにも改修工事でSSL AvantとFairlight DREAM Satellite、dremi V1Dを導入しています。

avex

エイベックス株式会社様 青山&麻布

以前からお使いの24MIXシステム4セットをProToolsHDシステムへとアップグレード。さらに追加で1セット導入され、計5セットのProToolsHD3システムが各スタジオに配置されました。プラグインソフトが充実しており、現在ProToolsHD対応として発売されているほとんどのソフトがどのスタジオでも使える環境と、自社テクニカルスタッフの強力なサポート体制が魅力です。

EXA

株式会社エクサインターナショナル様 MA室新設

恵比寿にあるエクサ様では、5.1chサラウンド対応のMA室を新設されました。既存のスタジオとも互換をとるために、コンソールはサウンドトラックス DPC II、DAWにはFairlightとProToolsHDを導入されました。それぞれのコントローラーが移動できるので、作業スタイルを自由に変更することが出来ます。また、入力機器のクオリティも重視し、マイクプリにはMillennia HV3D-4、コンプ/リミッターにTCL-2 "Twincom"やAVALON AD2044を装備されました。サラウンドスピーカーは、DynaAudio AIRを採用しています。



HUMAX

株式会社ヒューマックスビジュアル様 MA室、SoundDesign室

新宿のHACスタジオに5.1chサラウンドMAルーム2室がリニューアルオープンしました。今回のMAルームは、英国アビーロードスタジオで採用されている最高級スピーカーシステム、B&W社 Signature800を採用し、家庭でのベストサラウンド再生環境も構築。通常モニターには、DynaAudio AIR5.1chとEclips512を使用しています。サラウンドモニタリングにはmagtraxを採用。2系統のサラウンド出力をするとともに、YAMAHA DNE32をインサートすることで音場補正が行なわれています。DAWはProToolsHD3にAVOptionXL、コンソールはProControl+EditPack+FaderPackで、アナブース内に設置したdigidesign「pre」をリモートコントロールできるようにしました。MA室とSoundDesign室の2室とも同じシステムを採用することでデータ互換、マシン互換がとれるシンプルシステム構成とし、内装はリビングルームの雰囲気を目指すことで、スタジオらしくない居心地の良い空間を作り上げました。



■2002年12月6日、7日、11日の3回、ヒューマックスビジュアル様MA室にて、ヒューマックスビジュアル様の最新のスタジオ設備の様子を撮影しました。

第四弾!

野外収録やPAで大活躍!

ファンタム電源で光る「ゴッパー型 懐中電灯」の製作の巻

By Nitta

みなさん、「ちょっとした明かりが必要な時」ってよくありません? 外録で機材を操作する時や、舞台裏での回線チェック、スタジオのビット内を探るときなど…。こんな時に大変便利なのが「ゴッパー型 懐中電灯!」。どこにでもあるマイクケーブルにつないでミキサーのファンタムをオンするだけ。従来の懐中電灯のような電池切れの心配なんて一切ありません!

作り方はカンタン。市販の懐中電灯の先端、リフレクターの部分を金ノコで切断してゴッパーのグリップの部分とバテで接着。プラモデル用の塗料で色をつけます。それからランプの豆電球をファンタム電源の微弱な電流でも十分な明るさが得られるよう、超高輝度型のLEDへと交換。LEDを4つを直列につなぐことで電球に負けない明るさを得るのです。

どうです? アナタもおひとついかがですか?



懐中電灯とマイクが合体。ゴッパーのグリップ部分は秋葉原のジャンクで入手。たったの100円。



細腕での取材に。間違ってもアナウンサーに渡さないよう、注意。

■材料	
ゴッパー (グリップの部分のみ)	1本
懐中電灯	1本
エポキシバテ	少々
塗料 (色:ガンメタル)	適宜
超高輝度白色LED	4個
定電流ダイオード (15mA)	1本
カーボン抵抗 (1KΩ)	2本

※ゴッパー型懐中電灯はライトは各自の責任で実験、製作してください。接続機器に損傷を与えた場合などの責任は負いかねます。

I N F O R M A T I O N

TAC セミナー 第1弾!

「サラウンドって何が必要?」



タックシステムの観点から見たサラウンドセミナーを開催いたします。

題して「サラウンドって何が必要?」

サラウンドの需要が高まる中、スタジオに求められている素朴な基本問題を(株)ソナの中原雅考氏とドルビーラボラトリーズの中山尚幸氏をお迎えし一緒に考えます。

- 第1ステージ スピーカーのセッティングと調整 (11:00 ~ 13:00)
- 第2ステージ ドルビーデジタルの正しい知識とモニタリング (14:00 ~ 16:00)
- 第3ステージ ProToolsを使ったサラウンドシステム (17:00 ~ 19:00)

日時: 2002年12月6日(金)・7日(土)
会場: (株)ヒューマックスビジュアル HACスタジオ (新宿区富久町) Signature (MA) ルーム

参加: 定員登録制

お申し込みは参加希望者の氏名、会社(スタジオ)名、希望ステージ、電話・e-mail等の連絡先を、FAXまたはe-mail tacsys@tacsystem.comまでお送りください。人数に限りがありますので抽選になる場合がございますがご了承ください。



Inter BEE 2002 国際放送機器展

今年はプロオーディオから映像・放送関連機材部門にブースを移し、本誌でご紹介した新製品などを主に展示しております。是非お立ち寄りください。

日時: 2002年11月20日(水) 10:00 ~ 17:30

2002年11月21日(木) 10:00 ~ 17:30

2002年11月22日(金) 10:00 ~ 17:00

会場: 日本コンベンションセンター [幕張メッセ]

展示ブース: ホール6 # 6306 映像・放送関連機材部門

New Face コーナー!

皆様、改めまして。一応新人の吉田です。録音の現場に長らく従事し、近年は某メーカーにてデモを主に仕事をして参りました。レコスタ、MA、PAの現場知識とPro Tools製品は割と得意です。その辺りのシステムでお悩みの方、一度ご相談下さい。

一緒に飲むといつもこんな感じの吉田さん



New Face コーナー!

この9月からシステム技術関係を担当させていただいております。柳澤望と申します。お打ち合わせ等は迅速にフォローアップできどこへでも飛んでいきます。是非、システムや工事物件のお打ち合わせをさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



編集後記

- ・次回は写真をきちんと撮らうと思います。(やな)
- ・早くコイコイ冬休み。(ますこ)
- ・OKMを使っているんな音を録ってみよう。(ひらの)
- ・誰か原稿書いてくれないかな。(やまと)

- ・初めてなのにいっぱい書いてしまいました。(よし)
- ・おもしろかった。(にった)
- ・今回はケーブル作りました。(あさむ)
- ・そろそろスキーシーズンイン!こればっかですみません。(しめ)